

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に根ざした教育活動を展開することで地域社会を支える人材を育成し、地域とともに歩む学校をめざす。

生徒に育みたい力

- 1 確かな学力を身につけ、自らの進路を選択し、希望を実現する力
- 2 自らの考えを発信できるコミュニケーション能力
- 3 部活動や各種行事、地域との連携事業等を通じて、周囲との協調性と豊かな人間性
- 4 社会体験をはじめとするキャリア教育によって、将来社会に貢献する意識
- 5 困難な局面を打開できる課題解決能力の醸成

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし絶え間ない授業改善に取り組む。
- ア 授業力向上委員会を核に、公開授業、研究授業、相互参観、授業アンケートを活用した授業改善に組織的に取り組む。
- ※「授業アンケート」による5つの授業評価軸平均（平成27年度3.12）を毎年引き上げ、3年後に3.17にする。
- イ ICT機器等を用いた授業や形態を工夫した授業を展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上をはかる。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」に対する満足度（平成27年度62%）を3年後に72%にする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「ICT機器が授業等で活用されている」に対する満足度（平成27年度62%）を3年後に72%にする。

2 進路指導の充実

- (1) 学習指導と進路指導を連結させ、生徒の希望する進路の実現を支援する。
- ア 全校的な取組みにより、生徒の学習習慣の確立を図る。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「家庭での学習時間を確保している」に対する肯定率（平成27年度36%）を3年後に45%にする。
- イ 放課後や長期休業中の組織的な補習・講習体制の確立に取り組む。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「放課後や長期休業中の補習・講習を十分行っている」に対する満足度（平成27年度66%）を3年後に76%にする。
- ウ 3年間を見通した進路プログラムを設定し、きめ細かいキャリア教育を実施することで、進路希望実現を図る。
- ※関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学、京都産業大学、近畿大学、甲南大学、龍谷大学、佛教大学の合格者を3年後に30名にする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における進路指導満足度（平成27年度72%）を3年後に82%にする。

3 生徒指導の充実

- (1) 基本的生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
- ア 挨拶、身だしなみの改善・定着、SNS使用上のモラル向上、遅刻指導の強化に向け、全教職員での取組みを図る。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「基本的習慣の確立に力を入れている」に対する肯定率（平成27年度61%）を3年後に70%にする。
- ※年間遅刻者数を3年間で2割減にする。
- (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の主体的な行動を促し、生徒の自主性や社会性を醸成する。
- ア 部活動や各種行事を通じて、周囲との協調性、課題解決能力を育成する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「部活動に積極的に取り組んでいる」に対する肯定率（平成27年度60%）を3年後に70%にする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度（平成27年度72%）を3年後に82%にする。

4 地域と連携した魅力ある学校づくり

- (1) 地域と連携し、地域の社会資源を活用した教育活動を展開する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活動などで地域の人々と交流する」に対する満足度（平成27年度54%）を3年後に64%にする。
- (2) 人権尊重の教育、心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、他者を思いやる豊かな人間性を育む。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「学校の人権意識育成姿勢」に対する肯定率（平成27年度60%）を3年後に70%にする。
- (3) 学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育の推進や、清掃活動への徹底を促す。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「学校の美化環境」に対する肯定率（平成27年度54%）を3年後に64%にする。
- (4) 開かれた学校づくりの推進
- ア 学校運営への一層の協力・理解を求めため、保護者に対する情報提供の工夫を凝らす。
- ※保護者向け学校教育自己診断における「教育情報の提供」に対する満足度（平成27年度74%）を3年後に83%にする。
- イ 地域に信頼され誇りとされる学校をめざし、本校の教育活動の内容を積極的に情報発信する。（中学校などへの訪問活動の充実）

5 学校経営・運営体制の強化

- (1) 普通科専門コース設置校への改編実施に伴い、学校運営の機動性を高めるため組織力の強化を図る。
- ア 学校運営の機動性を高めるため、運営委員会や将来構想戦略委員会の活性化を図り、多様な計画を実施する体制を確立する。
- イ 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る。
- (2) 校務処理システムの活用による校務の効率化を図り、教職員の事務作業の軽減化を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・生徒の「本校に入学してよかった」がこの4年間80%以上を保持している。保護者は2年間90%を超えている。</p> <p>・「学校に行くのが楽しい」は、この3年間生徒保護者共に80%を超えている。学校の諸活動に対して一定の満足度があると考えられる。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>・授業力の向上に向けた取組を2年前から引き続き実施しているが、「教え方に工夫をしている先生が多く授業はわかりやすい」の生徒の肯定的な回答が62%→68%と上がり、成果が出つつある。が、教員の自己評価86%に比べると低く、その原因と改善が課題となっている。</p> <p>・「ICT機器の活用」については、生徒の肯定的な回答がこの3年間65%→62%→64%と推移しており、ICT機器の活用が一定レベル定着して</p>	<p>第1回（6/17）</p> <p>○授業見学について</p> <p>・生徒が落ち着いている。授業を積極的に受けている生徒が多い。卒業式は厳格な雰囲気ですら爽やかであった。</p> <p>・小中学校では、アクティブラーニングをかなり取り組んでいる。学校で授業スタイルを揃える。生徒はグループ学習等を一生懸命やっている。</p> <p>○学校経営計画の説明、分掌・学年から報告について</p> <p>・過去に遅刻対策として朝学習を始めたが、マンネリ化するため、工夫がいる。</p> <p>・アルバイトの届出制は維持が難しい。次回、状況報告してほしい。</p> <p>・遅刻指導をしっかりとやると欠席が増えることがある。遅刻の低減策として、生徒同士で呼び込む方法がある。</p> <p>・家庭学習の充実は、どの学校も課題になっている。</p>

府立みどり清朋高等学校

<p>いるが、より一層の活用をめざして研修等を実施していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「授業での発表等の機会」が2年連続47%と停滞しており、授業形態等の工夫をはじめ、より一層の充実を図らなければならない。 生徒の「家庭学習時間の確保」については、36%→40%と上昇しつつあるが、まだ低い水準なので学習習慣定着への働きかけを強めなければならない。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「生活指導は適切である」は70%前後を微減、保護者の「生徒指導方針は理解できる」は70%台で微増となっている。今後も本校の方針の理解を得ながら生徒の指導を進めていきたい。 生徒の「進路指導等が適切に行われている」は72%で横ばい、保護者の「将来の進路について適切な指導を行っている」が77%→73%と微減となっている。進路指導やエリア・科目選択については、年2回の懇談や各種説明会で相談体制ができつつあるが、細やかな個別指導が一層求められていると思われる。 「文化祭、体育大会などは楽しく行えるよう工夫がある」については、生徒保護者とも8割前後ほどが肯定しており、今後も生徒の主体性を大切にしながら取り組んでいきたい。 年度当初の部活動体験期間の設定やアルバイトに対する指導等、生徒への働きかけを強めたにもかかわらず「部活動を積極的に取り組んで」が60%→53%と下降した。部活動活性化への方策再検討が必要である。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年や部では意思統一が行き渡り、「学年・分掌の仕事は組織的に行われている」について、教員の肯定的回答は73%と毎年上昇している。また、「分掌・学年等の連携はうまくいっている」についても、毎年上昇し62%となった。今後も、組織的な運営が行き渡るようにしたい。 「教育情報の提供」については保護者の肯定的回答が78%、教員が75%と、保護者と学校との認識のずれがほぼなくなり、様々な方策が実を結んだと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車の任意保険加入をもっと呼びかけてほしい。交通安全指導など、更なる啓発をお願いする。 <p>第2回（10/6）</p> <p>○今年度の重点目標の進捗状況報告について、</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導面では、どの指導が一番効果があるのかを見て効果があるものを全体のものとしてはどうか。 各学年で発達の度合いも異なるので、違った指導もあり得る。決まったことを守らせることに集中して、心を忘れてはならない。 親子関係が希薄になっている傾向がある現状でよく生徒は学校に来れていると感じる。高校と同様、中学校でもSNSの危険性について指導している。 一般家庭の経済状況が悪くなっているため、学校の指導だけでは解決しない。 主に女子の部活動加入率の低下はアルバイトも関係しているかもしれないが、クラブが生徒のニーズに合っていないか、興味のあるクラブが無いのかもしれない。 <p>○確かな学力育成の取り組み説明について</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT活用は使い勝手が良くなれば、必ず使用頻度が上がる。 教員相互の授業見学は中学校でも盛んにやっている。必ず授業力の向上につながるはずである。 <p>第3回（2/6）</p> <p>○学校評価、授業アンケート結果、学校教育自己診断結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校満足度」が安定して上がっているのは良い傾向である。 生徒の悩みの相談相手に教員がなっていないのが残念である。 学校のHPを見てもらうための連絡方法を考えてはどうか。 HPだけでなく、様々なもので学校の様子が保護者に分かればよいと思う。 地域の福祉施設等での交流は、将来の進路のことを考えても有効である。 学校教育自己診断で、生徒と教員の意識のギャップを埋めるのはなかなか難しい。 遅刻などの地道に取り組まないと成果が出ない項目で、データが良くなっているのは教員の頑張りだと思う。 部活動活性化は簡単ではないと思うが、何とか工夫を凝らして取り組んでもらいたい。 <p>○分掌・学年から目標達成状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> アルバイトをやっている生徒が多く、部活動が衰退していくのは残念である。 ピアス等装飾品の指導はたいへん難しいと思うが、生徒への指導を頑張してほしい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善の取組み</p> <p>ア 授業改善に組織的に取り組む</p> <p>イ ICT機器の導入、形態の工夫による授業改革</p>	<p>ア・授業力向上委員会を中心に、本校生徒にとって力を伸ばす「確かな学力」を身に着ける方策についての検討協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業推進月間の設定、相互授業参観の実施（年間2回） 小・中学校との授業交流 授業アンケート（年2回）結果に基づく校内研修会の実施 実習・体験学習の推進（校外も含む） 授業における学校外の人材の積極的活用 <p>イ・ICT機器等を取り入れた授業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT活用研究（活用授業相互見学） 授業形態の工夫、双方向を意識した授業展開 アクティブラーニング等の研修実施（先進他校視察） 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における入学満足度を85%（平成27年度82%） 授業アンケートの5つの授業評価軸平均を3.14（平成27年度3.12） <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」を66%（平成27年度62%） 生徒向け学校教育自己診断における「ICT機器の活用」満足度を66%（平成27年度62%） 	<p>ア・学年、分掌等で専門コースの内容確認と生徒への周知を行い、3年生のエリア諸課題の改善に努めた。「入学してよかった」82%→86%（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業力向上の取組として、教員相互の授業見学期間を設定し、グループで意見交換と全体で発表を行った。また、授業アンケート結果に基づく個人と教科で振り返りを行い、生徒へ結果を還元した。次年度は授業相互見学の方式を工夫していきたい。 <p>イ・授業アンケート5つの授業評価軸平均（3.15）（○）</p> <p>イ・研修等によって教員の「ICT機器を活用している」が62%→70%と増加したが、生徒のICT機器活用についての評価は62%→64%と微増にとどまった。次年度は活用方法の工夫が必要である。（△）</p> <p>パッケージ研修支援Ⅱによるアクティブラーニングについての研修、先進校視察は計画通り実施した。「授業は分かりやすい」62%→68%（○）</p>
2 進路指導の充実	<p>(1) 進路実現の支援</p> <p>ア 学習習慣の確立</p> <p>イ 組織的な補習・講習体制の確立</p> <p>ウ 進路プログラムを設定し、キャリア教育実施</p>	<p>ア・1年次教科別勉強法の徹底指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次での習熟度別少人数授業実施 学習の動機づけとしての英語検定、漢字検定等の資格取得促進 自習室でのオンライン講習拡充 基礎学力充実のための朝学習実施 <p>イ・校内講習体制の組織化（進路指導部主導の講習・補習）</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後、長期休業中の講習等の充実 <p>ウ・3年間を見通した進路プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生徒カルテ」の作成による生徒のキャリアデザイン支援 適時な進路情報を提供し、目標設定を支援 大学見学会の実施等、外部説明会への参加、卒業生との懇談会による進路意識の向上 保護者向け進路説明会の実施 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における「家庭学習時間の確保」肯定率39%（平成27年度36%） <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における「補習講習は十分行っている」満足度70%（平成27年度66%） 関西9私大合格者を15名（平成27年度7名） <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における進路指導満足度を76%（平成27年度72%） 	<p>ア・入学直後に、エリアの説明とともに学習について紹介し、その後は各教科で指導を行い、加えて今年度より朝学習を導入した。次年度も入学直後を重点とした指導を継続したい。「家庭学習時間の確保」肯定率36%→40%（○）</p> <p>イ・放課後や長期休業中の講習、補習は、進路指導部が提案実施するサイクルが確立した。次年度は、講習の内容の精選とより適時な講習計画を立てたい。「学校は補習講習を十分行っている」66%→64%（△）</p> <p>関西9私大合格者7名→18名（◎）</p> <p>ウ・進路指導部と学年団が連携して、3年間を見通した進路計画に基づいた各種取組みを実施した。総合的な学習の時間等を利用した各種キャリア教育を増やし、適性テスト、進路説明会を行った。保護者向け進路説明会の回数を増やして保護者の進路意識の向上を図った。次年度は、3年間の進路指導計画を再検討したい。「進路指導満足度」72%→72%（△）</p>

府立みどり清朋高等学校

<p>3 生徒指導の充実</p>	<p>(1) 基本的生活習慣の改善・定着 ア 挨拶、身だしなみ指導と遅刻指導の強化 (2) 特別活動等を通じて自主性や社会性を醸成 ア 部活動と各種行事の活性化</p>	<p>(1) ア・全職員による生徒指導の確立のため、生徒指導課題に共通認識を図る。特に、担任等が生徒の状況把握の感度を上げつつ、組織だった対応を行う。 ・身だしなみや自転車マナーの講習会の開催 ・SNS関連の講習会開催、携帯電話等の指導の徹底 ・保護者との連携を強化、特に遅刻の多い生徒への指導の工夫 (2) ア・入学当初の体験入部等の拡充 ・アルバイト等への規制検討 ・外部指導者の活用 ・学校説明会等での中学生の部活動見学実施 ・生徒会行事における生徒の役割の増大</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「基本的習慣の確立」肯定率を64%(平成27年度61%) ・遅刻者数前年比7%減(平成27年度2518) (2) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「部活動に積極的」肯定率を64%(平成27年度60%) ・生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度を76%(平成27年度72%)</p>	<p>(1) ア・全教員による登校マナー、身だしなみの指導を行った。次年度以降も基本的生活習慣改善の指導を継続したい。「基本的習慣の確立」61%→64%(○) 全教員による登校指導と遅刻常習者への指導強化により遅刻者数減少。次年度もこの体制を継続したい。遅刻者数前年比16%減(2518→2119)(◎) (2) ア・学校説明会等での中学生への部活動見学、小中学校との連携行事での文化部アピール、入学後の体験入部期間設定に加えて、アルバイト届出制を導入したが、部活動や学校行事の活性化にはつながらなかった。部活動の活性化の方策を再検討する必要がある。 「部活動に積極的」肯定率60%→53%(△)、 「学校行事満足度」72%→73%(△)</p>
<p>4 地域に信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 地域と連携した教育活動の展開 ア 地域交流・連携の推進 (2) 開かれた学校づくりの推進 ア タイムリーな保護者への情報提供 イ 中学校等への広報活動</p>	<p>(1) ア・地域の学校や福祉施設などとの連携推進 ・小学校・中学校への出前授業、保育所等での生徒の実習体験、自治会事業への参加 ・部活動での小・中学生との交流(出かける地域連携) (2) ア・携帯連絡網やホームページの活用 ・保護者、地域への授業見学会実施 ・保護者向け講演会開催と個人面談の充実 ・学校行事におけるPTAとの一層の連携 イ・生徒が活躍する学校説明会を開催(年5回) ・全教員による中学校訪問の内容充実 ・出張模擬授業の実施、中学生への授業公開</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「地域との交流」満足度を58%(平成27年度54%) (2) ア ・保護者向け学校教育自己診断における「教育情報の提供」を満足度77%(平成27年度74%) ・携帯連絡網加入率を78%(平成27年度74%) イ ・学校説明会への参加中学生数を850名(平成27年度795名)</p>	<p>(1) ア・幼小中学校との交流等は、生徒会執行部や文化部生徒の達成感につながったが、他の生徒への交流の広がりには欠けており、次年度の改善点である。「授業や部活動などでの地域とのかかわり」満足度54%→43%(△) (2) イ・保護者への情報発信は携帯連絡網を利用し、加入率も順調に伸びた。HPについては様々な情報(部活動、学校行事、説明会等)の更新頻度を増やした。 「教育情報の提供」満足度74%→78%(○) 携帯連絡網の加入率74%→82%(◎) ウ・体験入学会を含めて計5回の学校説明会を実施し、中学校教員向けの説明会や近隣の中学校への訪問を行った。次年度は説明会等により生徒の出番を増やす内容にしていきたい。 学校説明会への参加中学生795人→942人(◎)</p>